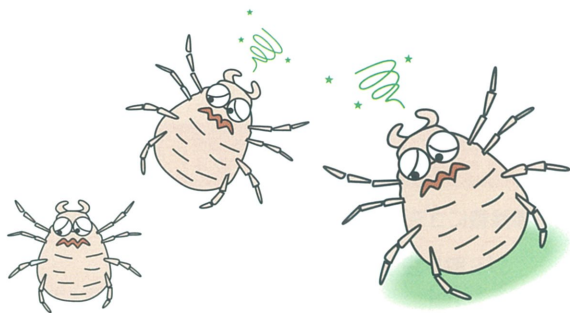


「学校環境衛生基準」準拠商品

Mitey Checker[®]

ダニ検査用マイティチェッカー[®]は

簡単・確実な 簡易検査キット



年に1度の定期的なダニチェックが義務化されました。

学校内のダニ・ダニアレルゲン検査に!

文部科学省の「学校環境衛生基準」が平成21年4月に改訂、施行され、ダニまたはダニアレルゲンを年1回定期的に検査することが義務づけられました。

ダニ検査用マイティチェッカー[®]は、「学校環境衛生基準」に則した準拠商品で、誰でも簡単・確実にダニアレルゲンの検出・判定が行える検査キットです。

簡単!!
4ステップ

STEP1



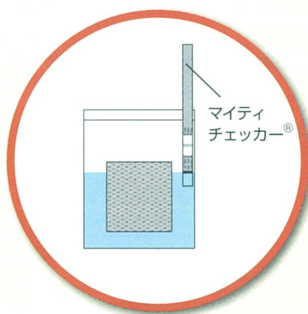
ゴミをとって

STEP2



1分間揉んで

STEP3



3秒間浸けて

STEP4



10分間待つだけ

学校環境衛生基準(一部抜粋)

検査項目:ダニ又はダニアレルゲン

検査方法:湿度及び湿度が高い時期に、ダニの発生しやすい場所(保健室の寝具、カーペット敷きの教室など)において1m²を電気掃除機で1分間吸引し、ダニを捕集する。捕集したダニは顕微鏡で計数するか、アレルゲンを抽出し、酸素免疫測定法によりアレルゲン量を測定する。
尚、これらと相関の高い方法によって行う事もできる。

基準:100匹/m²以下又はこれと同等のアレルゲン量以下であること。

検査回数:毎学年1回定期的に検査を行うものとする。



ダニ検査用マイティチェッカー[®] (5テスト入り)

- | | |
|-------------------------------|----------------------|
| ① マイティチェッカー [®] ……5本 | ④ 抽出液 ……5本 |
| ② ゴミ取り袋 ……5枚 | ⑤ 取扱説明書(判定用色見本) ……1枚 |
| ③ チャック付ビニール袋 ……5枚 | |

● 2テスト入りもあります。

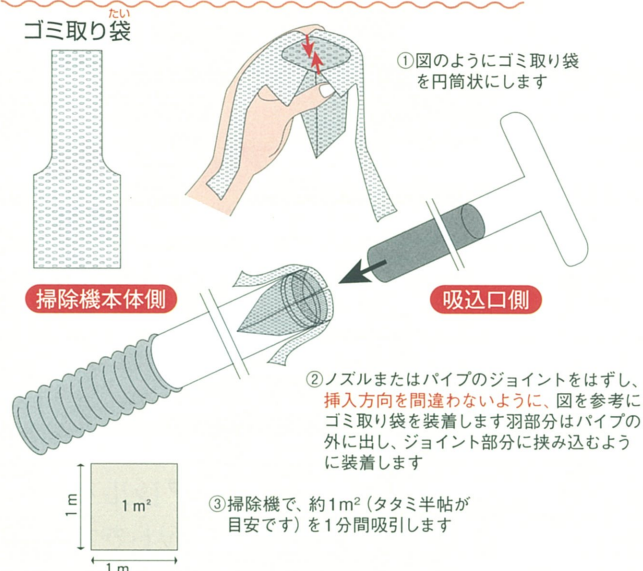
SES 住化エンバイロメンタルサイエンス株式会社

※マイティチェッカーは住化エンバイロメンタルサイエンス株式会社の登録商標です。

使用方法

STEP1 掃除機でゴミを採取します

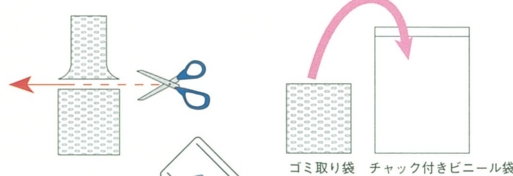
掃除機にゴミ取り袋をセットし、約1m²を1分間吸引します



STEP2 アレルゲンを抽出します

抽出液を作ってゴミ取り袋を浸し、アレルゲンを抽出します

①ゴミ取り袋を図のように切り取り、下半分をチャック付きビニール袋に入れます

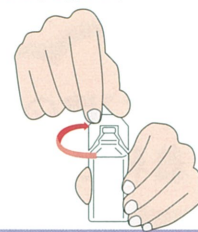


②抽出液全量をゴミ取り袋を入れたチャック付きビニール袋に入れチャックを閉めます

③約1分間手でよく揉んで下さい（ダニアレルゲンの抽出）

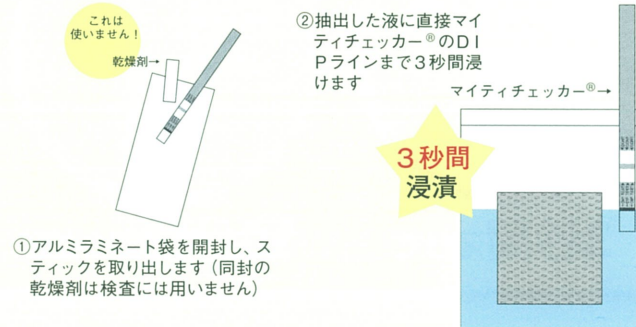
ワンポイントアドバイス！

抽出液はフタと本体を持ち、ひねって開けます

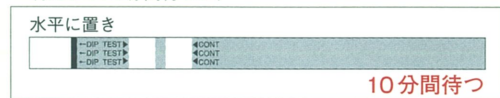


STEP3 アレルゲンを検出します

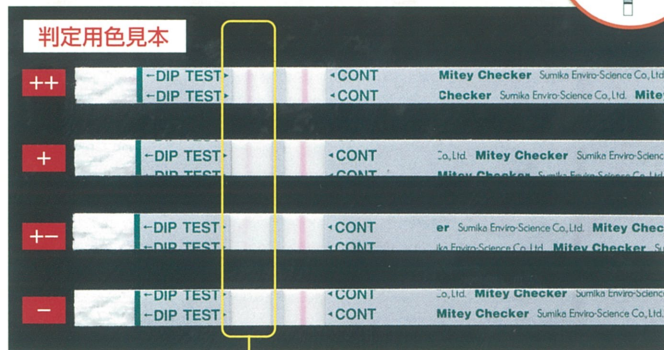
マイティチェッカー®を取り出し、抽出液に浸けます



③マイティチェッカー®をアルミラミネート袋等の上に水平に置き、判定まで10分間待ちます



STEP4 ダニアレルゲンレベルを判定します



マイティチェッカー®の判定基準

判定	判定の目安	ダニアレルゲンレベル
++	ハッキリとしたライン	>35μg (>350匹) /m ²
+	ラインであることが確認できる	10μg (100匹) /m ²
+ -	うっすらと発色しているのがわかる	5μg (50匹) /m ²
-	全く発色していない	<1μg (<10匹) /m ²

文部科学省の判定基準は「ダニ数は100匹/m²以下、又はこれと同等のアレルゲン量以下であること」となっています。マイティチェッカー®の「+」以下なら基準内であることがわかります。

*：数値は、粗抗原（ダニ抽出物）量です。ダニ（ヒョウヒダニ）匹数は、目安として記載しています。

マイティチェッカー®の測定原理

ダニアレルギーの臨床分野において主要アレルゲン（メジャーアレルゲン）の一つであるDer2※1（Derm2とDelp2の両方）と特異的に反応するモノクローナル抗体を用いた水平展開クロマト方式※2によって、ハウスダストの抽出液中に含まれるダニアレルゲンレベルを発色程度で表示します。

※1.Der2とは、ヒョウヒダニ虫体由来のアレルゲンです。

※2.水平展開クロマト方式とは、酵素免疫測定法（ELISA）を基に改良を加えて発展させた測定法です。

酵素免疫測定法との相関

マイティチェッカー®による検査方法と酵素免疫測定法の相関を調べた結果、相関係数は、 $r = 0.83$ と非常に高い値を示した。

よってマイティチェッカー®は学校環境衛生の基準で求められた測定方法に使用できる。

（出典：「ダニアレルゲン簡易検査法の有用性に関する研究」学校保健研究 第44巻 第4号）